



やまゆり

学校だより

令和6年2月20日
86号

学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 「生徒の良さを伸ばし、課題を改善する連携」

「学校評議委員会」を実施しました

昨日、2月19日(月)の午後2時30分から令和5年度の「学校評議委員会」を実施しました。学校評議委員会では、1年間の学校の状況を評議員さんに説明し、学校長の求めに応じて意見を頂きました。今後や次年度の学校経営の改善に生かします。

学校評議員

○杉本 純哉さん ○菅谷勝己さん ○佐藤隆光さん

頂いた主なご意見

- 学校評議委員会の目的を果たすためにも、学校評価に「C」を付けた方には、その理由や改善策を書いて頂くようお願いをする。
- 相談機能の充実について、今後も適切な対応をして頂きたい。
- 生徒が相談しやすい先生や相談内容によって相手を選べるのは良いと思う。
- ICTの活用・家庭学習の利用の仕方を工夫して、学力向上に生かして欲しい。
- 2年間の人事交流は何とかならないのか→県の人事交流制度に基づき変更は難しい。

司会の千葉教頭



学校評議委員会の様子



学校教育指導重点「生徒の良さを生かし、課題を改善するための連携」

「学校運営協議会」(コミュニティ・スクール)設置推進委員会を実施しました

昨日、2月19日(月)の午後4時15分から、学校運営協議会設置推進委員会の第4回の会議を行いました。次年度からの本実施に向けて、(1)「道志村学校運営協議会規則(案)」について、(2)「令和6年度の道志小・中学校学校経営方針」について、(3)「令和6年度道志小・中学校運営協議会活動」について、(4)その他等の議題について協議しました。

設置推進委員会の参加者は以下の13名です。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ①道志村CSアドバイザー 日永達彦教授 | ②道志小学校長 佐藤龍文校長 |
| ③道志小学校 都築和久教頭 | ④道志中学校 杉本賢二 |
| ⑤道志中学校 千葉玲子教頭 | ⑥道志中学校 前PTA会長 佐藤隆光さん |
| ⑦主任児童委員 山口富士男さん | ⑧主任児童委員 水越ひさみさん |
| ⑨スポーツ協会会長 山口大介さん | ⑩スクールガードリーダー 佐藤重雄さん |
| 事務局 教育長 佐藤文泰さん | 教育課長 山口とみさん |
| 学校教育担当 渡辺遼太郎さん | |

次年度は、協議会の委員は12名以内と事務局で学校運営協議会を運営する予定です。

小中学校の今年度の成果と次年度の学校経営方針を説明しました。また、今年度すでに活動している「ゴミゼロ活動」や「防災訓練」等の地域行事に小中学生が積極的に参加し、地域で児童・生徒を育成推進する方針を確認しました。

働き方改革や教職員の傷病休暇数の増加、教員不足、いじめや不登校問題、行事の精選等について学校の現状を説明しました。多くの方から、ご理解を頂けたと思います。

事務局の山口課長の司会で進行

教育長の挨拶・左側が山梨大学日永達彦教授



入試や論文対策として本校の3年生が書いた「生成AI」に対する意見紹介

中学生としては県内トップレベルの内容と文章力です

トピック：生成AI

生成AIの登場は、社会に大きな変化をもたらした。これから、AIと共に生きていく社会において大切なことや、活用法を考えていくことは非常に重要である。

まず、世界で生成AIの台頭が話題になっている背景には、主に2つの理由があると思う。1つ目は性能の向上だ。これまで人の仕事だった分野をAIが担えるようになってきている。その影響で全世界で3億人以上の雇用が喪失すると言われている。2つ目は、一般の人も利用できるようになったことだ。これまでは、一部の大企業や国でしか活用できなかった技術が広く使われるようになった。一方で、サイバー犯罪などの危険が高まり、フェイクニュースやフェイク動画が問題になっている。EUではこうした流れから、AI規制案をすでに採択している。

日本では、企業での開発や活用が進む一方で、広島AIプロセスを採択し、国際的なAIのルールづくりを進める方針だ。

このように現在、世界ではAIの利用ルールづくりを進め、雇用の喪失や犯罪等に対する恐怖が大きい。しかし私は、AIの台頭による一番大きな変化はこれらの恐怖ではなく、「人間らしさ」が再び脚光を浴びる社会になることだと思う。

AIの得意分野は事務作業や過去のデータを組み合わせて、分析したり提案したりすることだ。一方で苦手なことは、全く新しいものを創造したり、作品の良し悪しを感情基準で批評したりすることだ。この苦手なところは人間にしかできない、「人間らしさ」を求められる分野だ。これからの社会においては、このAIには代えられない「人間らしさ」が必要なものが評価されるようになっていくのだ。

では、「人間らしさ」を伸ばし、AI社会を生き抜いていくためにはどうしたらよいのか。私は教育に力を入れるべきだと思う。「個」が際立つ教育を実践し、「その人にしかできない」「その人らしい」という力を全員がもつ。さらに、AIを活かせる人材を生み出すこと。これらが重要だ。そこで、私は2つのことを提起したい。

1つ目は、一人ひとりの興味関心に合わせた、個別最適な教育の実践だ。各々が課題を設定し、追求する。そして他者と共有し、違いから学ぶ。このような教育をしていくことで、一人ひとりの価値観や視点が際立っていくと思う。

2つ目は、AIの活用法を小中学生に教えることだ。日本は現在デジタル競争力ランキングで29位と他先進国に遅れをとっている。そのため、この変革期にAIを活かし、発展させられる人材を育成する必要がある。必修のプログラミング教育と連携することで更に質の良いデジタル教育が推進できると考える。

生成AIの急速な進歩は、人間らしさが重要になる社会をつくるとともに、日本が成長するチャンスである。そのために、一人一人の個性を際立たせる教育とAIを発展させられる人材育成を進めていくべきだ。

次世代リीडを育てる

③8 杉本 賢二 山梨・道志村立道志中学校校長

私の担当の最後は、「協働する組織体制」を提起する。学校現場は、いじめや不登校等の教育課題を改善し、令和の日本型学校教育によって資質・能力の定着も求められている。さらに、教職員の不足や経験差の拡大もある。今こそ校長のリーダーシップの下、教職員が専門性を発揮し、協働することが重要である。山梨県人として忘れられない組織の好事例は、サッカーの天皇杯での「ヴァンフォーレ甲府」の優勝やACLでの大活躍である。しかし、教職員の協働実践は難しい。その原因として、個人や集団の実態が不明確で実践方法がさまざまであることや、主体性や同僚性の課題が考えられる。自校の教職員で確実な教育成果を上げるために、学級生活に関わる標準化されたアンケート調査を年3回実施している。同調査を活用する目的は、「生徒の認知に寄り添う、問題の早期発見、組織対応の三つの調査と面

「協働する組織体制」の構築

生徒への対応 「共通指標」を共有、教職員が支え合う

接・観察も含めた「共通指標」を教職員で共有し、協働実践の基盤つくりを行った。学級集団の安定と活性には、全学級での実践が理想であり、特定の学級や一部の学年で実現できても学校の成果として限定的である。そこで、個人と集団の状況を視覚化し、優先順位を決め、具体的な対応方法と対応者を明確にして組織のPDCAサイクルで実践している。若い教職員も、指導の根拠や対応方法の共有により主体性が向上した。また、指導過程の支え合いや学び合いで同僚性も向上している。この協働実践の成果は以下の通りである。①生徒自身が、安定と活性度を而立していることを実感している②いじめの解消③不登校生徒の予防④学校評価の肯定的意見85%以上⑤全国学力調査や標準化検査での学力向上⑥上記の結果による人材育成等である。今日の教育課題は、個人や学級集団だけでは改善が難しい。保護者や地域、関係機関との協働に力を入れている。その基盤として、まず協働する教職員の組織体制を実現したい。

「令和のやまなし教育活動モデル事業」の本校の成果を、日本教育新聞に掲載して頂きました ⑦